

授業科目名：教科 初等教科教育法 (音楽)	教員の免許状取得のため の必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：坂田映子 <small>さかたえいこ</small> 担当形態 単独
実務内容 (実務家教員の場合)	小学校教諭としての勤務経験を持つ教員が、音楽科における指導計画の作成、学習指導案の作成について指導する。		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目 (小学校)		
各科目に含めることが 必要な事項	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)「音楽」		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。</p> <p>A.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。</p> <p>B.問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。</p> <p>C.共感理解教育の理念を認識し、実践すること。</p> <p>D.多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p> <p>E.個人や社会にとって必要な課題の解決のため自律的な課題探究能力を身につけていること。</p> <p>F.共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小学校音楽科の目標及び内容全般について理解する。 2 音楽科の指導方法、学習評価方法について理解する。 3 音楽科学習指導案を作成できるようにする。 4 A 表現「歌唱、器楽、音楽づくり」B「鑑賞」の指導法を身に付ける。 			
<p>授業の概要</p> <p>小学校音楽の授業ができるようになるために必要な学習指導要領「音楽」の目標・内容指導計画の作成、内容の取扱いについて理解する。また、音楽的な見方・考え方を生かし、主体的・対話的深い学びを学習過程に取り込んだ音楽科学習指導案の作成、模擬授業を通して指導法の実際を学び、実践力及びカリキュラム・マネジメントによる授業改善の仕方を身に付ける。</p>			

授業計画

第1回：小学校学習指導要領 第2章 第6節 音楽 第1 音楽科の目標 第2 各学年の目標及び内容。

第2回：第3 指導計画の作成と内容の取扱い。

第3回：A 表現「歌唱」の指導事項の理解と歌唱指導法。

第4回：A 表現「歌唱」共通教材の理解及び合唱指導法。

第5回：A 表現「器楽」の指導事項と指導法。

第6回：A 表現「音楽づくり」の指導事項と指導法。

第7回：B 鑑賞の指導事項と「鑑賞」の指導法及び我が国の音楽・諸外国の音楽の理解。

第8回：〔共通事項〕音楽を特徴づけている要素、音楽の仕組みの理解。

第9回：音楽科の学習評価とカリキュラム・マネジメント。

第10回：主体的・対話的で深い学びを取り入れた学習過程とアクティブラーニング。

第11回：表現と鑑賞の関わりと ICT 活用。

第12回：指揮法の実際。

第13回：音楽科学習指導案作成の仕方。

第14回：主体的・対話的深い学びを取り入れた音楽科学習指導案の実際。

第15回：模擬授業、まとめ。

定期試験 科目修得試験

スクーリングでの学修内容

スクーリングではすべての内容について包括的に取り上げる。

教科書

(1) 初等科音楽教育研究会編『改訂版 最新初等科音楽教育法 2017 年告示「小学校学習指導要領」準拠』音楽之友社

(2) 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 音楽編』東洋館出版社

参考文献

鑑賞 CD 『音楽のおくりもの』1 年～6 年 教育出版株式会社

学生に対する評価

レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。